

〔百姓傳記 十二〕ホウヅキヲ作ル事

一ホウヅキノ種今三色見ヘタリ、地ホウヅキハ節間永ク、葉大キニ育チ、サヤ大キニトヲナリシテ、ホウヅキ小サク、秋ノ末ナラデハ熟セズ、悪キ種ナリ、サツマホウヅキト云テ、フシ合短カク、葉地ホウヅキヨリ小サク、サヤモツマリ、ホウヅキ大キニシテ、フシ毎ニナリ、デク際ヨリ赤クナリ、ホウヅキ大キナル種アリ、又南蠻ホウヅキ共云、チンチクリントモ云テ、木タデフシニシテ、葉小サク、ホウヅキノサヤ小サク、先ヲ内ヘ押込タルヤウニシテ、五月末ツ方ニ赤ラミ、大キナル種アリ、必フシ毎ニナル見事ナルモノナリ、土地ニ嫌ヒナク育ツ、然ドモ黒フク土輕土、日蔭木下ニハ忌ムベシ、フシ間延過、虫付テ葉枯花落テホウヅキナシ、濕ケ地ニ猶能ラズ、種ヲ二月蒔テ夏中ニ實ナリ、秋ニ色付、夫ハ六ツ箇敷キナリ、植付ノ根ヲ冬ヨリ正月ノ節ニ入マデ植直シテヨシ、其儘置テハ茂ク生ヘ出、木ニ病ヒ付、ホウヅキナラズ、植直スニ根ノフシヲ助ケ、フシ間ヨリ折テ間ヲ遠ク植ヨ、肥エ地ニ植テハ、木蔓コリ花付ズ、瘠地ニ好ミテ植ヨ、

〔草木育種 下〕酸漿本草 根分ハ二八月よし、濕地を好もの也、魚洗汁人糞を澆ぐべし、又瓔珞ほゞ、づきは實の形長刀ほゞづきに似たり、

〔古事記 上〕須佐之男命略 問汝哭由者何、答曰、言我之女者、自本在八稚女、是高志之八俣、遠呂智三、字以、每年來喫、今其可來時、故泣爾、問其形如何、答曰、彼且如赤加賀智、而身一有八頭、八尾中略、此謂者、今酸醬者也、

〔日本書紀 二代〕一書云、略 先驅者還、白有一神、略 眼如八咫鏡、而赭然似赤酸醬也、

〔枕草子 九〕おほきにてよき物

〔還魂紙料 下〕江戸酸漿